

けないで、それで教員會議を開いて、その福地に辭職させるといふことになり、橋本先生、高村光雲、その他五、六人で福地のところへ談判に行きました。「福地は三十年四月辭職——編者注」さうすると福地は、これは岡倉が指圖したんだらうといふので、岡倉排斥論をたくらんだのです。

岡倉先生は福地を非常に信用されてゐましたから、ふだん何でも喋舌つてゐました。それで福地は岡倉先生のことを何でも知つてゐました。これには大村西崖、これも美術學校の卒業生で助教になつた人ですが、その他二人ばかりが關係して、岡倉先生の平常の行狀のすべてを書き立てて、岡倉排斥論、岡倉攻撃論をこしらへ、文部省はじめ、新聞社、雜誌社、生徒の父兄など、世間一般に發表したのです。ですから文部省は、さういふ行狀の悪い人を學校の校長にしておくわけにはいかないといふので、岡倉先生を非職に命じたのです。いきなり罷めさせたわけではありませんでした。岡倉先生の教へを受けた人で、先生に感動し、敬服してゐた人々が、先生が美術學校をおやめになるなら、一緒に私達もやめるといふことで、教職員の三十六名が連袂辭職をしました。それ以外、あとのことは少しも考へてゐませんでした。ただそれだけの考へで、岡倉先生に殉じたのです。ですから、あれから半歳経つか経たなかつた時分に岡倉先生が、日本美術院を建てたいと私どもに御相談になられたとき、それでは何でもいたしますからといふことではじめられたのが、前期の日本美術院でした。それは明治三十一年のことでした。(下略)

『大觀画談』昭和二十六年八月。大日本雄弁會講談社

## ⑥ 精藝會

東京美術學校騒動は卒業生の間にも波紋を投じた。卒業生団体錦巷會(二十九年一月結成)は既に消滅しており、騒動後日本美術院に与した卒業生は院の受託製作に参加することにより技術練磨と、多少は糊口の道も得たが、本校側に与した者には依るべき基盤がなかつたので、精藝會を結成し、同様に受託製作事業を開始した。しかし、同會は發展せず、短期で消滅したようである。錦巷會といい精藝會といい、事業の第一に掲げているのは受託製作であり、このことは卒業後の自営がいかに困難であつたかを示している。

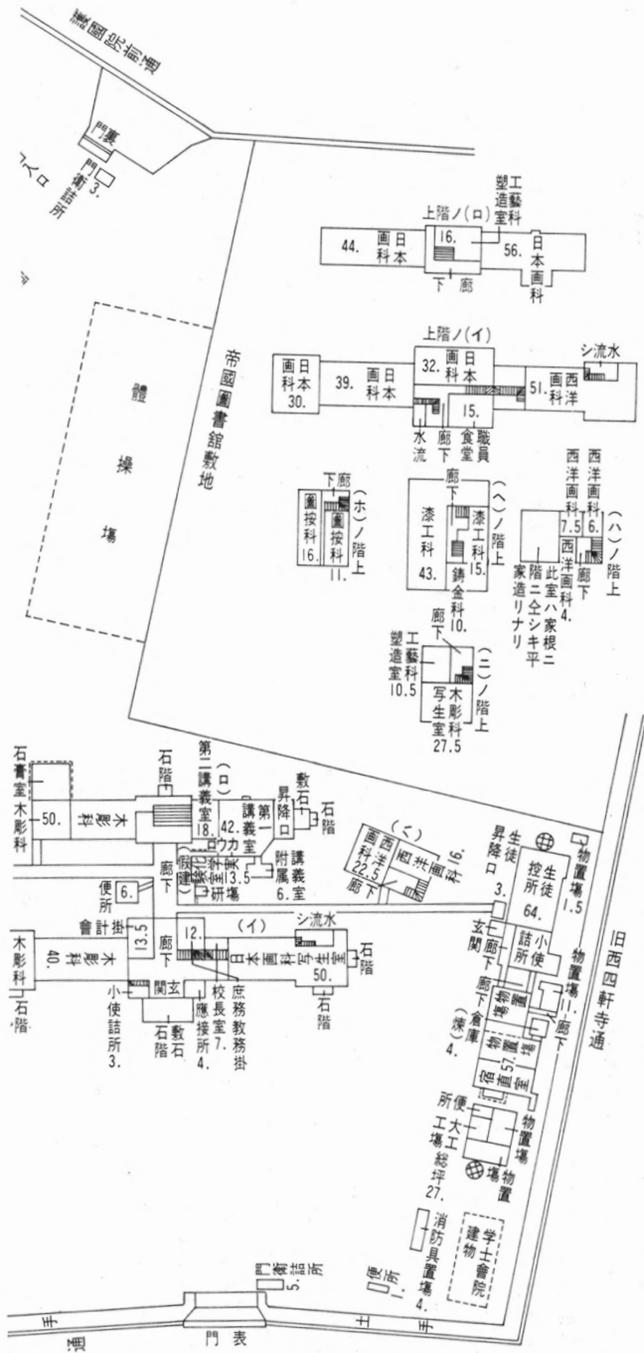
○東京美術學校卒業生は、精藝會といふものを組織し去る七月十九日創立式を擧げたり。會長には同校美學美術史講師森林太郎氏を推し、評議員をば久保田鼎、今泉雄作二氏に托し、同校教授等をば名譽會員に推撰し、來る九月ごろより、卒業生技術練習の爲に、依托製作の事業に従事すべしといふ。また公認豫備校美術學館も同會に付屬したり。會の委員は左の如し。

白井保次郎 島田友春 溝口禎次郎 田中後治 齋藤秀岳 黒岩倉吉 和田英作 秋月復郎

(『美術評論』第十三号。明治三十一年八月)

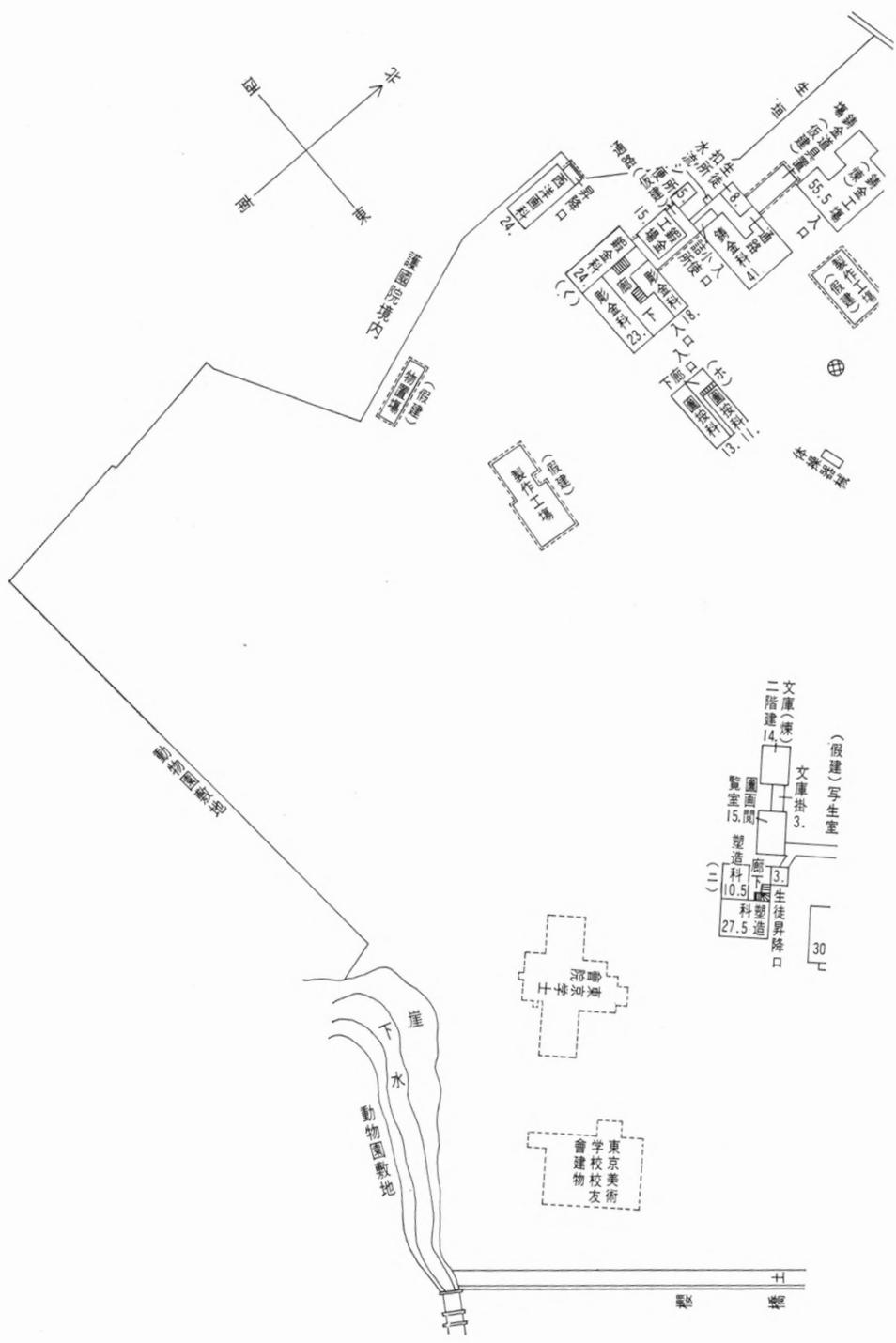
▲美術學校と美術院 從來の美術學校生ハ卒業後適當の地位を求めて就職するの例なりしかバ今回の卒業生も亦これに倣ひて夫々就職の口を探し中にハ約束濟となりし向もありしを例の大村西崖

東京美術學校敷地建物略圖



一敷地面積壹萬貳千八百五拾四坪六合四勺  
 一建物總坪數壹千五百拾貳坪九合貳勺壹分  
 圖中(棟)ハ煉瓦造(假建)ハ木造假建物ヲ示ス其他ハ皆木造ナリ  
 數字ハ坪數ニシテ周圍ノハ溝ヲ示ス

『東京美術學校一覽 從明治三十二年』より  
 至明治三十三年



嶋田友春等が美術院對抗策として設立したる工巧會改め精藝會の威勢を張らんが爲め強て彼等の就職を斷念せしめんと欲し或ハ美術史編纂の事ありと稱し或ハ博物館摸寫の事ありと稱し之に依りて十分の手當を得るの道もあれバ研究旁々暫らく會員に加はりて盡力せらるゝことハ如何などいひて連り之を引留めたりしが編纂も摸寫も思ふに任せず未だ着手に至らざれば卒業生等ハ今更に後悔し斯てハ遂に糊口の道にも窮するに至るべしとて目下頻りに苦情を翻し居れり斯くと聞きたる美術院ハ機失ふべからずとなし今回更に準會員なるものを置き正會員指揮の下に依托製作の業に與からしめこれによりて相當の報酬を與ふるの制を立てたれば彼等ハ宛ら大早の雲霓に於けるが如く陸續として入會を申込み來れりと

(明治三十一年八月七日『万朝報』)

#### ⑦ 日本絵画協会第四回、第五回共進会

明治三十一年三月十八日から同年五月一日まで、上野公園旧博覧会第五号館で日本絵画協会第四回共進会が開催された。今回は特に図案の部門が設けられた。四月二十六日、即ち橋本雅邦以下本校辞職組の辞表が受理された当日、褒賞授与式が行われ、川合玉堂「花見」と小坂象堂「養雞」に銀牌が、小堀鞆音「内野の雪」、下村観山「小町」、菱田春草「観画」、寺崎広業「歳の市」に銅牌が、また、木村武山その他百三十名に褒状が授与された。

第五回共進会は美術学校騒動後の十月十五日から十一月十五日まで日本美術院で開催された。開会は日本美術院開院式と同時に同行わ

れ、また、これと併せて日本美術院第一回展覧会も開かれた。十一月五日に褒賞授与式が行われ、横山大観「屈原」、下村観山「者維」、寺崎広業「後赤壁」、尾形月耕「江戸の花」に銀牌が、西郷孤月「蘇武」、菱田春草「武蔵野」、小堀鞆音「恩賜の御衣」、川合玉堂「孤鹿」、山田敬中「那須の篠原」、邨田丹陵「森蘭丸」、木村武山「野辺」に銅牌が、また、水野年方「美人」その他に褒状が授与された。なお、この十月には日本美術院の機関誌『日本美術』が創刊された。